

慶應義塾大学 安全対策マニュアル

はじめに

この安全対策マニュアルは、慶應義塾大学ウィンドサーフィン部において安全管理の徹底を図り、活動中に発生しうる事故やトラブルによる被害の防止、軽減を目的としている。部活動でウィンドサーフィンの技術向上を努める上で部員一人ひとりがこのマニュアルをよく読み内容を熟知し、安全対策への意識を向上させる。これによって、全員が安心して活動に取り組める環境を築いていくことを目的とする。

さらなる安全の確保のため、今後定期的に見直し新たん情報をくわえるなど更新し、常に最新の状態にしておくよう心掛けることとする。

1. 出艇前に行うべきこと

- (1) 部員は自分の使用するリグなど道具の状態、整備に責任を持ち、発生しうるトラブルを予め想定し回避するために対応しておくことが必要である。特にジョイントに関するトラブルは自走が難しくなってしまう事案であるが小物なので、海上でも対応できるようジョイントの予備を携帯しておくことが望ましい。特に以下に示す点については最大限注意を払う必要がある。

- マストプロテクションが破れていないか
- ブームに歪みがたつきが出ていないか
- セールに破けそうな場所がないか
- カニンガム、ダウン、アウトのシートが千切れそうになっていないか
- アップホールが切れそうになっていないか
- ジョイントが壊れそうでないか
- ボードとジョイントの繋げる部分が壊れていないか

- (2) 出艇する際はライフジャケットの着用、笛、レスキューシート、アクアパックと充電の十分であるスマートフォンの携帯を義務とする。スマートフォンの携帯はトラブル発生時に他の部員やショップの方、海上保安庁などに連絡するのに必要であり、自分の位置情報を相手に伝達することなどにも利用できる。以下にレスキューは必要となった際の連絡先を示す。この番号は皆が知っておく必要があり、特に CB surfers さんの電話番号は各自の電話帳に入れておくなどしすぐに電話ができるようにしておくこと。

CB surfers : 046 873 5225

海上での事故などの緊急通報用番号 : 118

- (3) 出艇体する際には CB surfers 内の出艇用のノートに各自名前, 使用するセル番号, 出艇時間, 帰着予想時間を記入すること. また帰着を完了したら帰着時間を書くこと. この申告を忘れるとショップの方が流されてしまっているかの判断ができなく迷惑をかけることとなるので書き忘れのないよう注意する.
- (4) 出艇前にその日の気象予報を確認しておく. この際, 一つのサイトだけでなく複数のサイト(赤・青 windy, Yahoo 天気, Windguru)を参考にする. また, 特に荒天や天候の急変が予想される時は天気図も合わせて確認しておくといい. (前線や低気圧によるものなのか, 高気圧によるものなのかなど)
オフショアの吹き予報などで自分たちだけで判断が難しい時にはショップの有識者に意見を求めること.
- (5) コンディションが悪い際には出艇を中止, もしくは延期する判断をする. 出艇をキャンセルと判断する際の参考基準を以下に示す.
- 平均風速 13m/s 以上
 - 雷注意報発令時
 - 視程 2km 未満
- 浜から葉山港赤灯台までが約 1.25km, 菜島までが約 2.6km であることを参考にして判断をする
- (6) オフショア強風の際, 下級生は 10 時まで出艇を見送ることがある. 10 時以降ショップの有識者と相談の上改めて出艇の判断を行う. この際, 必ず上級生が一人は浜に残るもしくは 10 時の判断の時一度帰着する. これはオフショア時 9~10 時にかけて風が強まること, 10 時までショップに人がいないので万が一レスキューが必要となった場合の対応が遅れてしまうからである.

2. 活動場所の選定

自然と向き合っていくスポーツであるため, 特に地形的な危険についてはある程度理解をして活動場所を選定していく必要がある. 以下に認識しておくべき場所を簡単に示す. また, ヨットなど他の活動団体との接触のリスクを減らすためにも使用する海面が被らないよう留意する.

赤丸: 岩礁地帯やテトラポッド, 岸壁など

黄緑丸: 養殖用定置網(冬~春)

水色: 逗子海水浴場(夏季)

黄色マーカー: トラブル発生時や吹きあがった際緊急帰着先(燈摺, 森戸海岸)

このほかにも逗子海岸では様々なルールが存在しているので各自確認しておくことが好ましい.

<https://www.city.zushi.kanagawa.jp/shiminkatsudo/kanko/1007363/1004392.html>



図1 逗子の地形的特徴

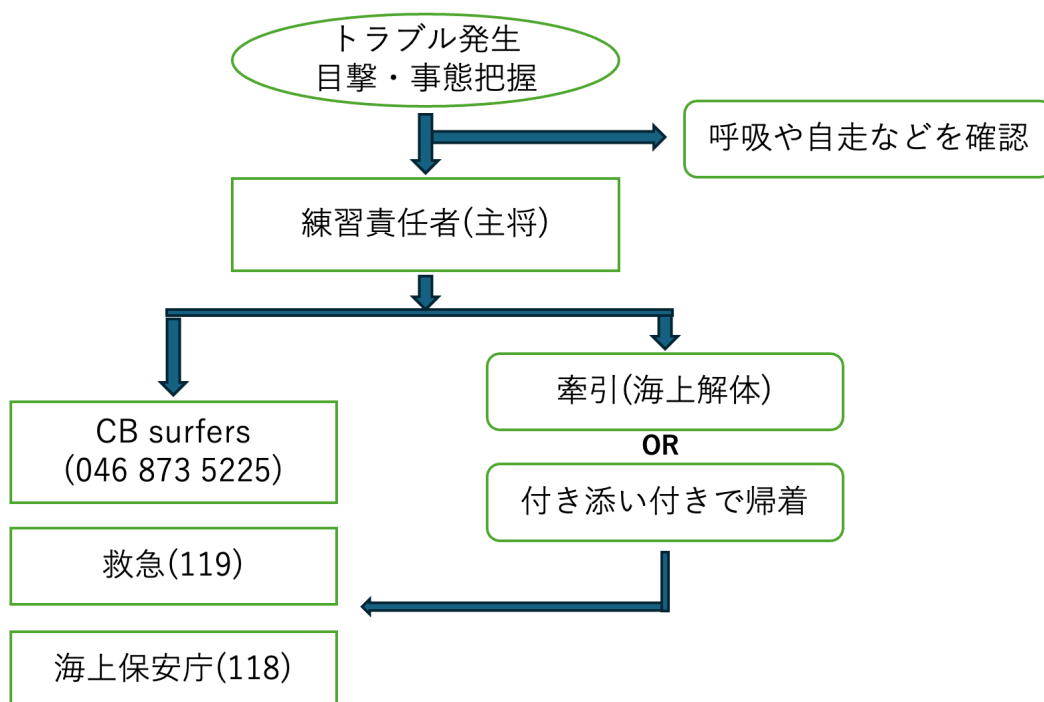
3. 出艇中の注意

- (1) 練習中もつねに天気の変化には注意をする。特に落雷の危険には最大限の注意が必要である。周囲に雨雲がないのか目視で確認し、必要に応じて雨雲レーダーなどを確認する。
- (2) 雷が鳴り始めてしまった場合、直ちに帰着を始める。ただし、すぐ近くまで雷が来てしまった場合にはセールを上げることは危険なので、セールを落としできるだけ姿勢を低くする。
- (3) 図1中に示したエリアにはなるべく近づかないように気を付ける。上級生は下級生が危険な場所にいないのか気を配ること。下級生が危険なエリアに近づきそうになってしまったらタックを促すなど未然に対応すること。
- (4) 風が吹いている場合、下級生は湾内に戻るよう判断することがある。急激に風が吹き上がってきた場合、セールが上がらなくなる前に最も近くの浜を目指す。湾内で活動していた場合は鑑摺海岸、湾外で活動していた場合には森戸海岸への帰着を目指す。

- (5) オフショアで吹き上がってセールがあがらなくなった場合，図 1 に示す危険エリアや湾外に流されていかないよう，近くに捕まれるブイなどを探しかまるようにする．このとき，ブイにアップホールを簡単にからめておくといい．
- (6) 特に夏季の練習において熱中症には気をつけるようにする．ラウンディングや艇速練の間などでは意識的に水分補給を行う．経口補水液を部費で購入し体調不良者が出た時にはすぐに対応できるようにしておく．

4. トラブル発生時の対応

- (1) トラブル発生時は，人員の安全を第一に考え行動する．
- (2) トラブルなどによって自走ができなくなった場合には，手を振る，笛を吹くなどして他の部員に助けが必要であることを伝達する．
- (3) トラブルが発生した場合は，当日の練習責任者(基本的には主将，最高学年の人が担うものとする)に伝達をする．責任者の判断のもと，以下に示すフローチャートのように対応する．
- (4)



- (5) 海上解体の方法については動画を参考にして確認しておくことが好ましい．
<https://www.youtube.com/watch?v=1OzJNCyiR3M>

5. 地震発生時の対応

- 地震による津波高と津波到達時間の予測

最大の津波高さ：10.4 m，最短到達時間：11 分

(相模トラフ沿いの海溝型地震（西側モデル）)

- 基本行動

地震が発生および緊急地震速報が発令された場合は安全の確保を第一とし、正確な情報を収集した上で高台への避難を行う。

- 陸にいる場合

揺れが収まったことを確認したのち避難を始める。この時、他の部員が海上にいる場合、速やかに情報を伝達し避難を促す。海上では地震に気づきにくいので陸からの情報伝達が海上にいる艇の避難は重要である。艇庫にいる場合の避難場所は披露山公園である。艇庫付近のハザードマップおよび避難経路は以下に示す。

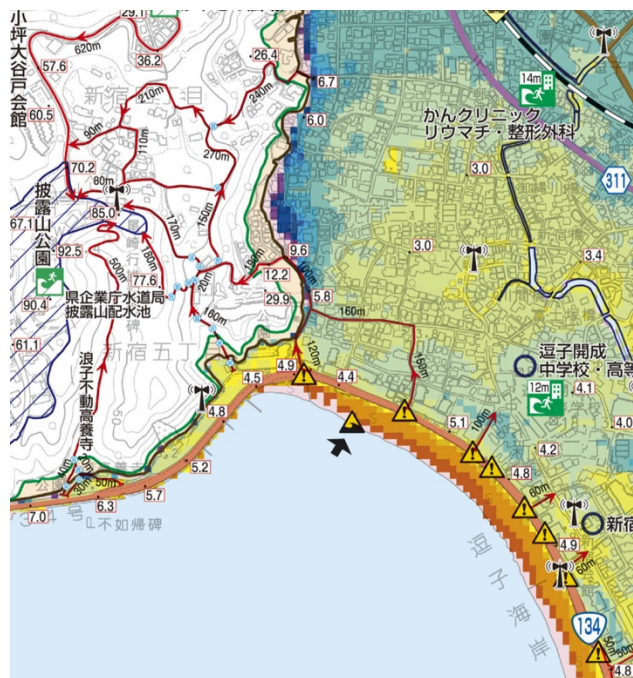


図2 艇庫付近のハザードマップ

- 海上にいる場合

緊急地震速報や陸上からの情報で地震および津波の情報を得たら、即時帰着を始める。海上では地震の揺れは感じにくいので、海震を感じた場合は津波が発生する可能性が非常に高いので注意が必要である。地震が発生し津波が発生すると予測が出た場合には、津波フラッグが浜、葉山港などで掲揚される。



図3 津波フラッグ

避難を行う時、常に逗子海岸への帰着を目指すのではなく最も近い海岸（鐙摺海岸、森戸海岸）への帰着を目指す。地震が発生後、急に風が弱くなることもあり、（東日本大震災のとき）状況次第では艇体放棄をしてレスキュー船などによって避難を行う可能性があることを理解しておく。

鐙摺海岸、森戸海岸付近のハザードマップ、避難場所（長柄小学校）・経路は各自確認しておくことが好ましい。

逗子市 ハザードマップ

<https://www.city.zushi.kanagawa.jp/kurashi/bosai/1001502/1001542/index.html>

葉山町 防災関連マップ

<https://www.town.hayama.lg.jp/soshiki/bousaiaizen/2/3/1663.html>

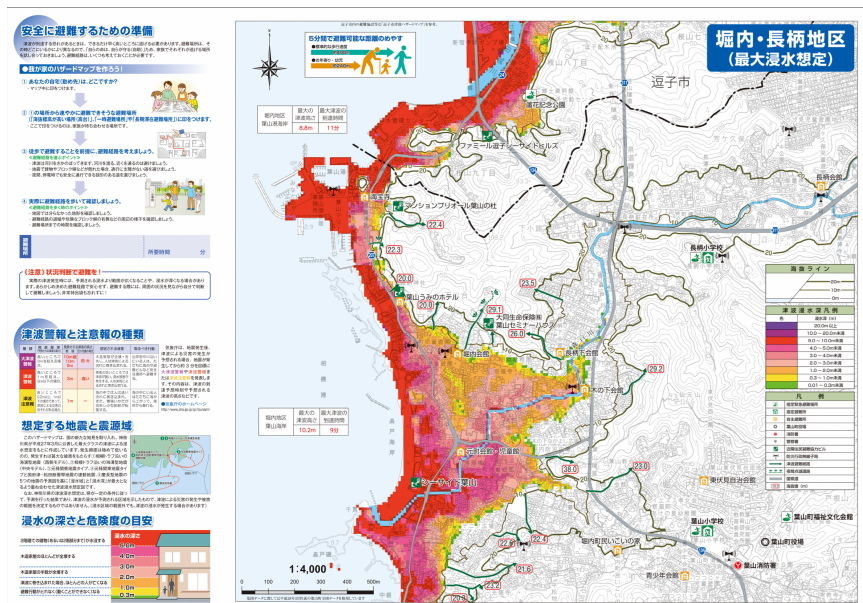


図4 鐙摺、森戸海岸付近のハザードマップ

6. 自主練について

基本的に一人出艇は禁止とする.

ただし逗子海岸で活動する他の大学の部員と一緒に出艇する場合は慶應内から一人でも出艇を認める. 2025 年度より明治大学と自主練で出艇する日を google カレンダーで共有をはじめた.